

淀川流域における主要な水道事業者等の概要と危機管理対策について（15）

大阪市の浄水場

	柴島浄水場	庭窪浄水場	豊野浄水場
場所	大阪市東淀川区	大阪府守口市	大阪府寝屋川市
水源	淀川表流水	淀川表流水	淀川表流水
取水地点	東淀川区柴島3丁目及び摂津市一津屋地先の淀川右岸	守口市大日4丁目地先及び大庭町2丁目地先の淀川左岸	枚方市楠葉中之芝1丁目地先の淀川左岸
給水能力	118万m ³ /日	80万m ³ /日	45万m ³ /日
浄水処理方法	高度浄水処理	高度浄水処理	高度浄水処理

原水水質

大阪市の3つの浄水場の原水水質は、3つの浄水場の取水する位置関係から次のような特徴をあわせ持ちます。

- 柴島浄水場： 浄水場下流部に位置する淀川大堰による河川水の滞留の影響を受けます
- 庭窪浄水場： 宇治川、木津川、桂川といった3川以外に、淀川中流部で流入する支川の影響を受けます
- 豊野浄水場： 3川合流地点の下流側左岸の楠葉で取水するため、他の2つの浄水場に比べて木津川の影響を受けます

(大阪市水道・水質管理計画より)

淀川流域における主要な水道事業者等の概要と危機管理対策について（16）

淀川水質協議会

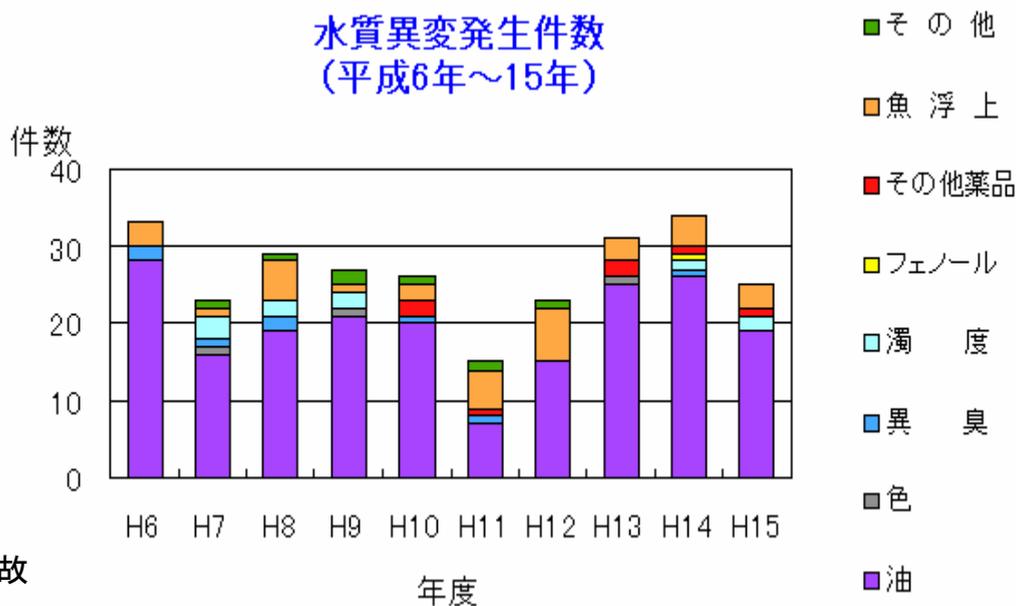
昭和40年8月、水道事業7団体（大阪府、大阪市、守口市、枚方市、寝屋川市、尼崎市、阪神水道企業団）が淀川水質協議会を結成。

昭和57年6月には吹田市、平成4年4月には西宮市、平成9年4月には伊丹市も参加。
水源水質の観測、各種調査研究等を行っている。



洛南9号水路重クロム酸ナトリウム流出事故

水質異変発生件数
(平成6年～15年)



(淀川水質協議会HPより)

阪神水道企業団

■神戸送水路

神戸送水路とは、阪神水道企業団が主に神戸市へ水道水を給水するためのもので、西宮市の甲山から芦屋市と神戸市の市境まで六甲山を横断するトンネルです。この神戸送水路は、当初、山岳ルートとして、既設の送水トンネルに並行して作られる予定でしたが、阪神・淡路大震災により既設トンネルの一部が被害を受けたことから、危険分散のため市街地ルートに変更しました。全長7.3kmの送水管を神戸市の大容量送水管と接続することにより、災害時等に市街地での給水が可能となります。



(阪神水道企業団HPより)

阪神水道企業団

■新尼崎浄水場の更新(H9~12)

- ・旧尼崎浄水場(昭和17年供用開始、処理能力213,000m³)と旧甲山浄水場(昭和30年供用開始、処理能力160,000m³)を統合した新尼崎浄水場(平成13年供用開始、計画能力373,000m^{3*})

を建設

*構成団体の水需要動向を考慮し12年度末には計画能力の半量が完成

・建設の方針

浄水場の耐震化(レベル2への対応)
水質管理の高度化(高度浄水処理)
環境負荷の低減(エネルギー、再利用)
市民に開かれた社会基盤施設(見学施設)

・特徴

業務委託(交代制勤務)
浄水池上部有効利用(ホームセンター)

・事業費 322億円(1期工事分)



(阪神水道企業団資料より)

阪神水道企業団

■新尼崎浄水場の耐震化

ハード面の対応

- ・地震動レベル2対応（沈澱地、ろ過池等主要構造物）
- ・液状化防止対策（地盤改良等）
- ・耐震用止水板の採用
- ・伸縮可とう管の採用（構造物と管路の取り合い部）
- ・薬液注入用配管の耐震化

ソフト面の対応

- ・浄水系統の2系統化
- ・バックアップシステムの構築
- ・コージェネレーション設備の導入
- ・消毒剤の変更（次亜塩素酸ナトリウム）
- ・浄水池容量の増加
- ・応急給水施設の設置